

1 4) 西の湖の水草現存量と水草除去の効果

西森克浩

【目的】

西の湖での水草現存量と水草除去の効果进行分析する。

【方法】

平成 12 年度真珠養殖漁場環境管理事業業務報告書（県水産課が県真珠母貝漁業協同組合に委託）のデータを分析した。

【結果】

調査地点を図 1 に示した。

St.A では、5 月に一度だけ刈り取りを行った St.A - 1 と比べて、5 月～ 8 月にかけて毎月刈り取りを行った St.A - 4 の方が水草現存量が少なくなった（図 2）。

St.B でも、6 月に一度だけ刈り取りを行った St.B - 1 と比べて、6 月、7 月に刈り取りを行った St.B - 2 の方が水草現存量が少なくなった（図 3）。

St.C では、St.C - 1 と St.C - 2 で差が認められなかったが（図 4）、これは St.C で繁茂した主な水草がマツモであったことが原因ではないかと考えられる。マツモは根が退化しているので風波で移動しやすいため、刈り取りによって空いた場所に非刈り取り区のマツモが移動

した可能性がある。表 1 に水草除去試験区の水草除去率を示した。水草除去率は 2 % から 36 % と低いですが、今回取り戻り得る大きな効果は、求めらるべき必要が

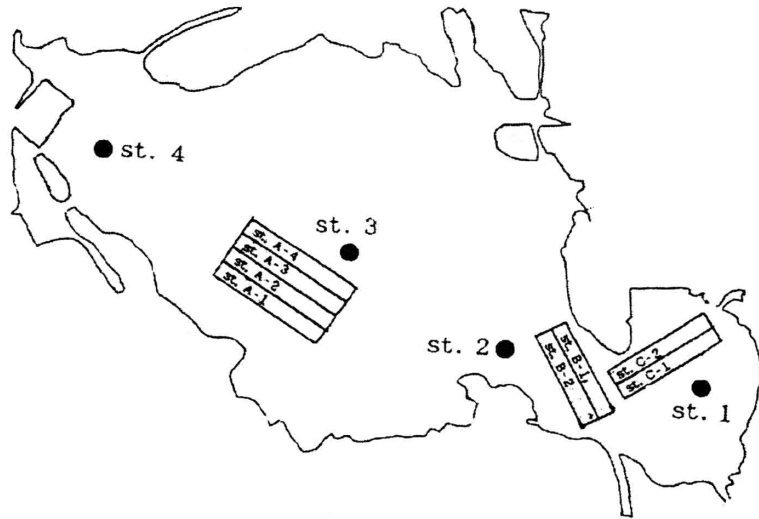


図 1 調査地点

表 1 水草除去試験区内の水草現存量（湿重量）と水草除去量（湿重量）

	StA-1			StA-2			StA-3			StA-4		
	現存量kg	除去量kg	除去率%	現存量kg	除去量kg	除去率%	現存量kg	除去量kg	除去率%	現存量kg	除去量kg	除去率%
5月	1,250	220	18%	750	250	33%	1,250	260	21%	1,500	240	16%
6月	1,500	0		500	180	36%	1,000	200	20%	1,750	180	10%
7月	12,500	0		11,250	0		10,500	200	2%	11,250	250	2%
8月	15,000	0		11,250	0		15,000	0		7,500	200	3%
9月	7,500	0		5,000	0		5,000	0		2,500	0	
10月	5,000	0		2,500	0		2,500	0		1,250	0	
11月	5,000	0		3,000	0		2,250	0		1,750	0	
計	47,750	220	18%	34,250	430	35%	37,500	660	14%	27,500	870	8%

	StB-1			StB-2			StC-1			StC-2		
	現存量kg	除去量kg	除去率%	現存量kg	除去量kg	除去率%	現存量kg	除去量kg	除去率%	現存量kg	除去量kg	除去率%
5月	12,000	0		16,250	0		4,750	0		1,250	0	
6月	9,750	1,100	11%	14,500	1,200	8%	6,750	0		1,000	0	
7月	21,250	0		17,500	1,900	11%	15,000	2,000	13%	12,500	1,900	15%
8月	45,000	0		40,000	0		8,750	0		10,000	1,300	13%
9月	37,500	0		27,500	0		7,500	0		7,500	0	
10月	10,000	0		7,500	0		6,250	0		4,500	0	
11月	6,000	0		4,250	0		4,000	0		3,250	0	
計	141,500	1,100	11%	127,500	3,100	10%	53,000	2,000	13%	40,000	3,200	14%

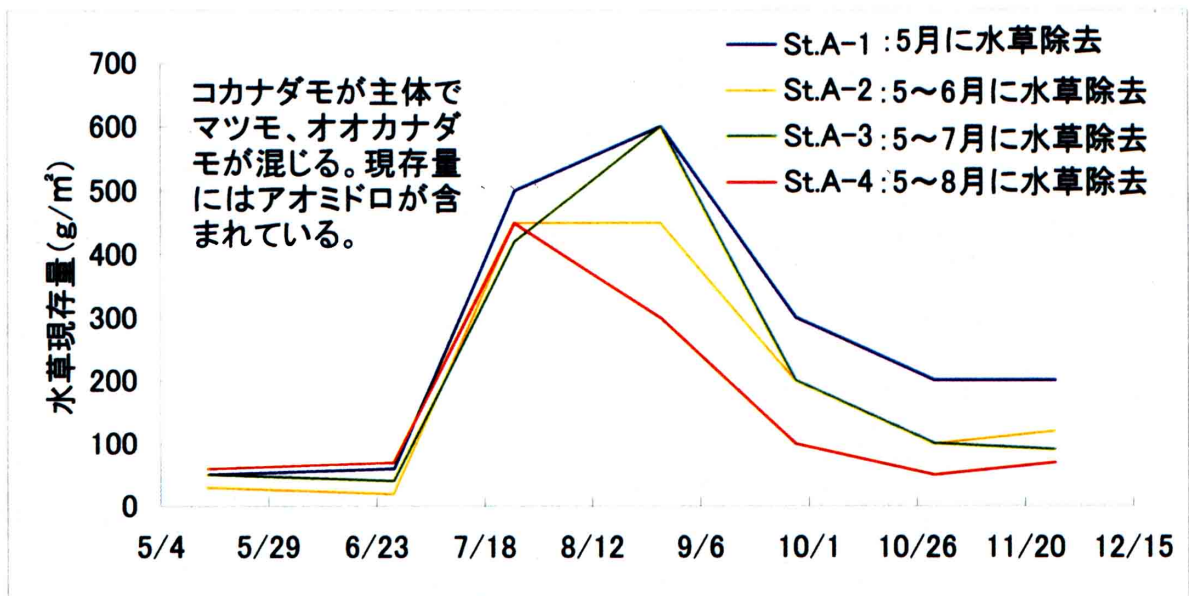


図2 St.Aの水草現存量の比較(水草除去は各月1回)

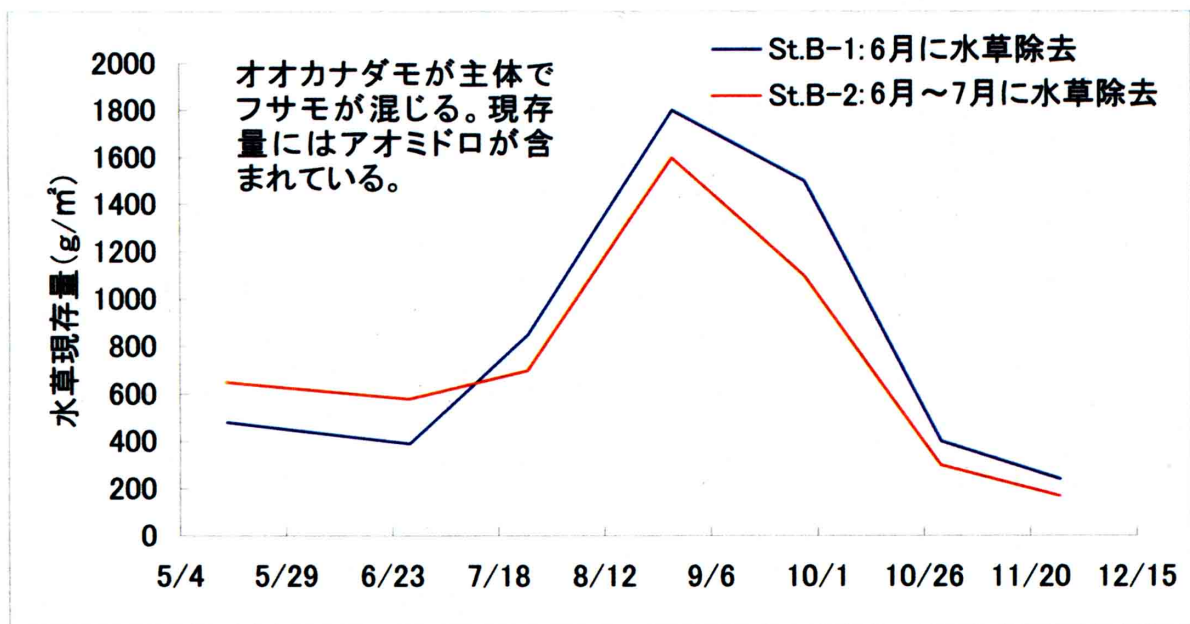


図3 St.Bの水草現存量の比較(水草除去は各月1回)

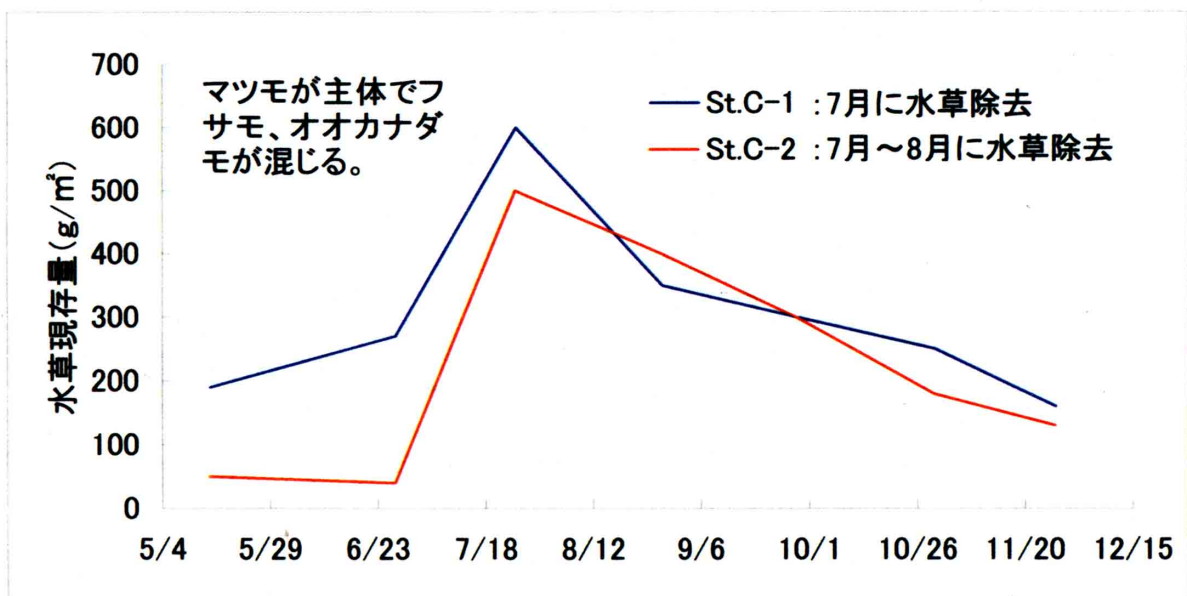


図4 St.Cの水草現存量の比較(水草除去は各月1回)